

# KDI (神奈川県景気動向指数)

## 平成23年2月分 (速報)

景気の現状を示す**一致指数**は、「県投資財出荷指数」がプラスに転じ、「県大口電力使用量」、「首都高速道路神奈川線通行台数」、「県有効求人倍率」、「県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)」及び「横浜港等輸出入通関実績」が引き続きプラスであったことから、85.7%となり、4か月連続で50%を上回りました。

景気の先行きを示す**先行指数**は、85.7%となり、2か月連続で50%を上回りました。

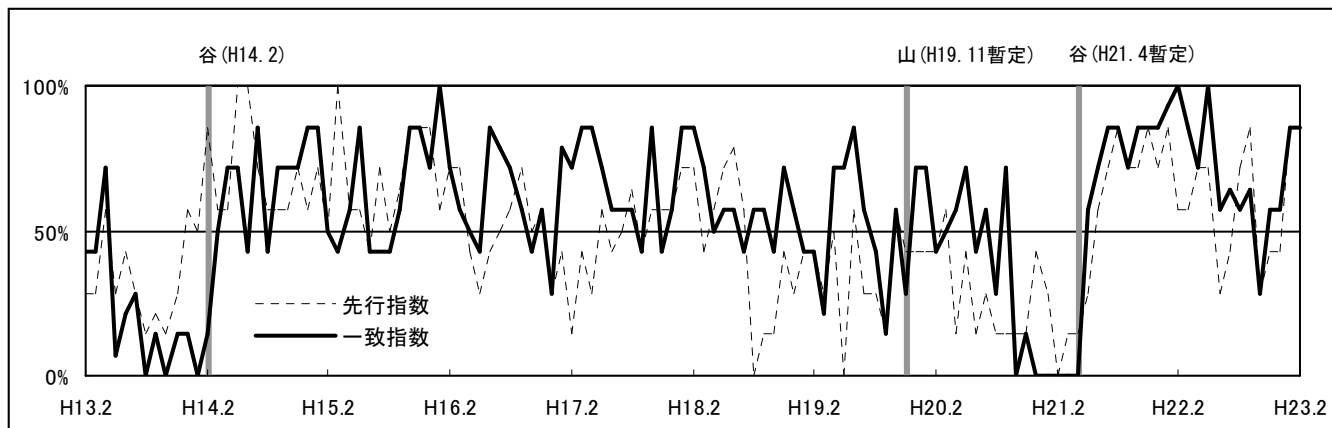
景気に遅れて動きを示す**遅行指数**は、33.3%となり、3か月連続で50%を下回りました。

### <過去1年間の指数の動き>

(単位 %)

月	H22.2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H23.1	2
先行指数	57.1	57.1	71.4	71.4	28.6	42.9	71.4	85.7	28.6	42.9	42.9	85.7	85.7
一致指数	100.0	85.7	71.4	100.0	57.1	64.3	57.1	64.3	28.6	57.1	57.1	85.7	85.7
遅行指数	50.0	75.0	25.0	0.0	50.0	66.7	83.3	25.0	66.7	50.0	33.3	33.3	33.3

### <先行指数と一致指数の動き>



#### ★景気動向指数

景気動向指数(ディフュージョン インデックス DI)は、生産、雇用など様々な経済分野の時系列データのうち、重要かつ景気に敏感な動きを示す複数の指標を統合した「総合的な景気指標」です。

DIは、使用する時系列データの変化方向(3か月前との比較)を合成した指数であり、景気の現状把握に役立てることができます。

現在、全国の指数は内閣府が毎月公表しているほか、他の自治体や研究機関でも各地域の指数について毎月又は四半期ごとに公表しています。

[平成23年4月発行]

問い合わせ先

神奈川県統計センター

企画分析課長 関根

企画分析課 更田、水谷

電話045-210-3209(直通)

電話045-210-1111(内線)3210

## 1. 平成23年2月分KDI（神奈川県景気動向指数）の各指数

先行指数は85.7%となり、2か月連続で50%を上回りました。  
一致指数は85.7%となり、4か月連続で50%を上回りました。  
遅行指数は33.3%となり、3か月連続で50%を下回りました。

各系列の指標の数値を3か月前と比較し、改善していれば「プラス」とし、悪化していれば「マイナス」とし、採用指標数に占める拡張(プラス)指標数の割合がDIです。(図表1)  
DIは、景気変動する方向を示し、一般的には、景気の拡張期には一致指数が50%を上回る期間が多くなり、50%を下回る期間が連続すると後退期の可能性があります。

## 2. 各系列の2月の変化方向（3か月前の「平成22年11月」に対する変化方向）

### （先行系列）

「県所定外労働時間指数」がマイナスに転じたものの、「<sup>注</sup>県新設住宅着工床面積」がプラスに転じ、「<sup>注</sup>県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)」、「<sup>注</sup>県新規求人数」、「<sup>注</sup>県乗用車新車新規登録・届出台数」、「<sup>注</sup>県企業倒産件数(逆サイクル)」及び「日経商品指数」が引き続きプラスでした。

### （一致系列）

「県生産指数」がマイナスに転じたものの、「<sup>注</sup>県投資財出荷指数」がプラスに転じ、「<sup>注</sup>県大口電力使用量」、「<sup>注</sup>首都高速道路神奈川線通行台数」、「<sup>注</sup>県有効求人倍率」、「<sup>注</sup>県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)」及び「<sup>注</sup>横浜港等輸出入通関実績」が引き続きプラスでした。

### （遅行系列）

「<sup>注</sup>県在庫指数」及び「<sup>注</sup>県普通営業倉庫保管残高」が引き続きプラスであったものの、「<sup>注</sup>県常用雇用指数」、「<sup>注</sup>県消費者物価指数」、「<sup>注</sup>県内銀行貸出約定平均金利」及び「<sup>注</sup>家計消費支出」が引き続きマイナスでした。

注:景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの指標は増加をマイナス、減少をプラスとします。

### 〔備考〕

- 1 KDIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるか(方向)を判断する指標であり、景気変化の強さや水準を表すものではありません。このため、現実の経済活動の中で感じ取られる「実感」とは異なることがあります。例えば、一致指数が50%を超え続け、方向としては拡張傾向にある場合でも、景気変化が緩慢で景気水準も低い場合は、実感として回復(拡張)感を感じられないこともあります。
- 2 速報データを使用した指標については確報値が出た後、さかのぼって数値を修正します。

図表1 神奈川県景気動向指数変化方向表

系 列 名	平成22年												平成23年	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
先行系	1 県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	+	+	+
	2 県新規求人数(除く学卒)	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+
	3 県所定外労働時間指数(製造業)	+	+	+	+	-	+	+	+	-	+	-	+	-
	4 県新設住宅着工床面積	-	-	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-	+
	5 県乗用車新車新規登録・届出台数(普・小・軽)	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-	+	+
	6 県企業倒産件数(逆サイクル)	-	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+
	7 日経商品指数(17種)・前年同月比	+	+	+	+	-	-	-	+	-	+	+	+	+
拡張指標数	4	4	5	5	2	3	5	6	2	3	3	6	6	
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
<b>先行指数(D.I.) (%)</b>	<b>57.1</b>	<b>57.1</b>	<b>71.4</b>	<b>71.4</b>	<b>28.6</b>	<b>42.9</b>	<b>71.4</b>	<b>85.7</b>	<b>28.6</b>	<b>42.9</b>	<b>42.9</b>	<b>85.7</b>	<b>85.7</b>	
一致系	1 県生産指数(製造工業)	+	+	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-
	2 県大口電力使用量	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	+	+
	3 首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)	+	+	+	+	+	-	+	-	-	-	+	+	+
	4 県投資財出荷指数	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-	+
	5 県有効求人倍率(除く学卒)	+	+	+	+	+	0	+	0	+	+	+	+	+
	6 県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+
	7 横浜港等輸出入通関実績	+	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+	+	+
拡張指標数	7	6	5	7	4	4.5	4	4.5	2	4	4	6	6	
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
<b>一致指数(D.I.) (%)</b>	<b>100.0</b>	<b>85.7</b>	<b>71.4</b>	<b>100.0</b>	<b>57.1</b>	<b>64.3</b>	<b>57.1</b>	<b>64.3</b>	<b>28.6</b>	<b>57.1</b>	<b>57.1</b>	<b>85.7</b>	<b>85.7</b>	
遅行系	1 県在庫指数(製造工業)	+	+	-	-	-	+	+	-	+	-	-	+	+
	2 県普通営業倉庫保管残高	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	3 県常用雇用指数(全産業)・前年同月比	+	+	-	-	-	+	+	0	-	+	-	-	-
	4 県消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)	-	0	0	-	+	-	-	-	+	+	+	-	-
	5 県内銀行貸出約定平均金利・前年同月比	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	-	-	-
	6 家計消費支出(勤労者・関東大都市圏)	-	+	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-
	拡張指標数	3	4.5	1.5	0	3	4	5	1.5	4	3	2	2	2
採用指標数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
<b>遅行指数(D.I.) (%)</b>	<b>50.0</b>	<b>75.0</b>	<b>25.0</b>	<b>0.0</b>	<b>50.0</b>	<b>66.7</b>	<b>83.3</b>	<b>25.0</b>	<b>66.7</b>	<b>50.0</b>	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	

(参考：経済関係レポート等抜粋)

月例経済報告 (内閣府・平成23年4月13日公表)

景気は、持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

先行きについては、当面は東日本大震災の影響から弱い動きが続くと見込まれる。その後、生産活動が回復していくに伴い、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待されるが、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原油価格上昇の影響等により、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

金融経済月報 (日本銀行・平成23年4月8日公表)

わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある。

先行きについては、当面、生産面を中心に下押し圧力が強い状態が続いたあと、供給面での制約が和らぎ、生産活動が回復していくにつれ、海外経済の改善を背景とする輸出の増加や、資本ストックの復元に向けた需要の顕現化などから、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。

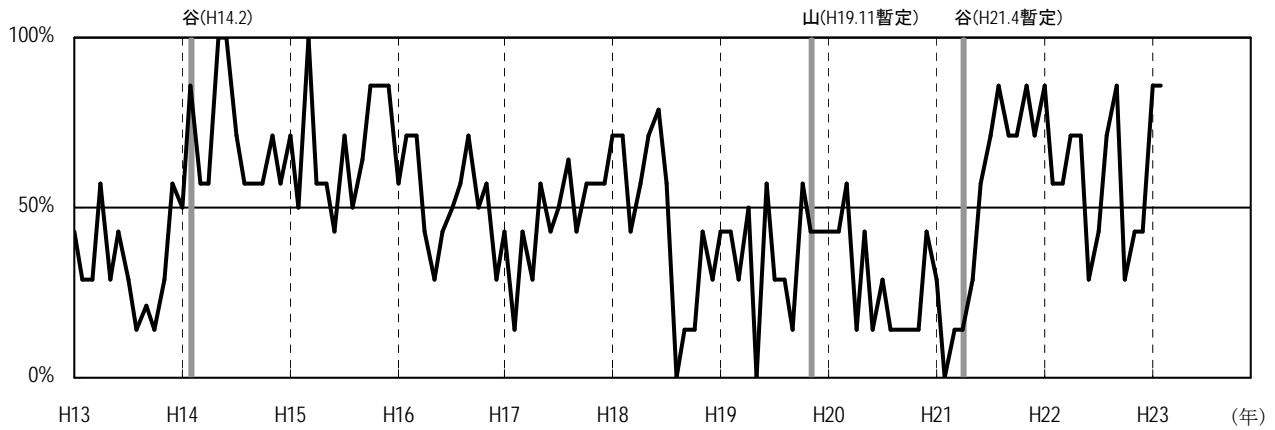
生産は、当面、低水準で推移するとみられるが、供給面での制約が和らぐにつれ、増加していくと考えられる。こうした状況になれば、海外経済の改善を背景に、輸出も増加に転じるとみられる。設備投資、住宅投資、公共投資も、資本ストックの復元に向けた動きなどから、徐々に増加していくとみられる。この間、個人消費も、生産活動が回復するにつれて、持ち直していくとみられる。

景気動向指数 (内閣府経済社会総合研究所・平成23年4月6日公表)

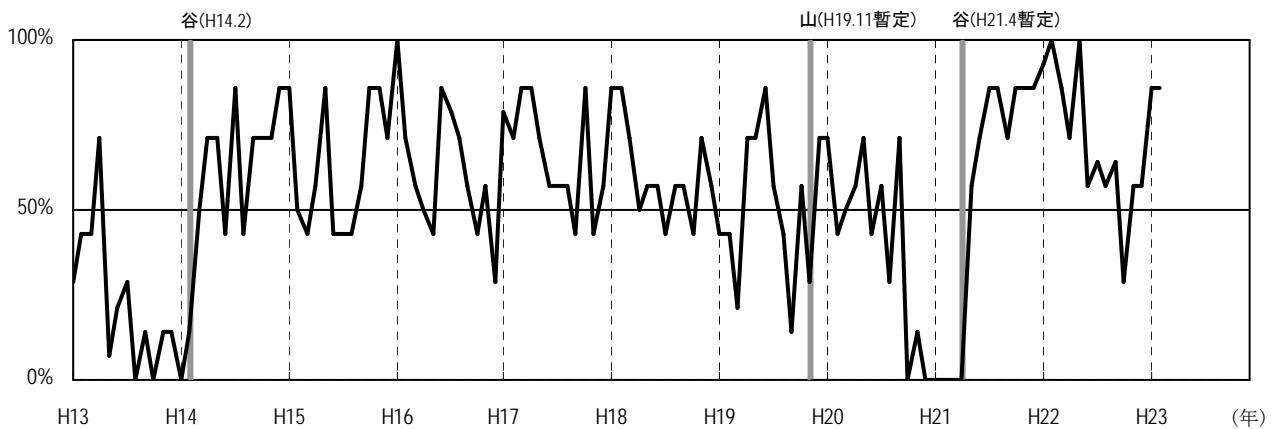
景気動向指数(CI一致指数)は、改善を示している。

図表2 神奈川県景気動向指数グラフ

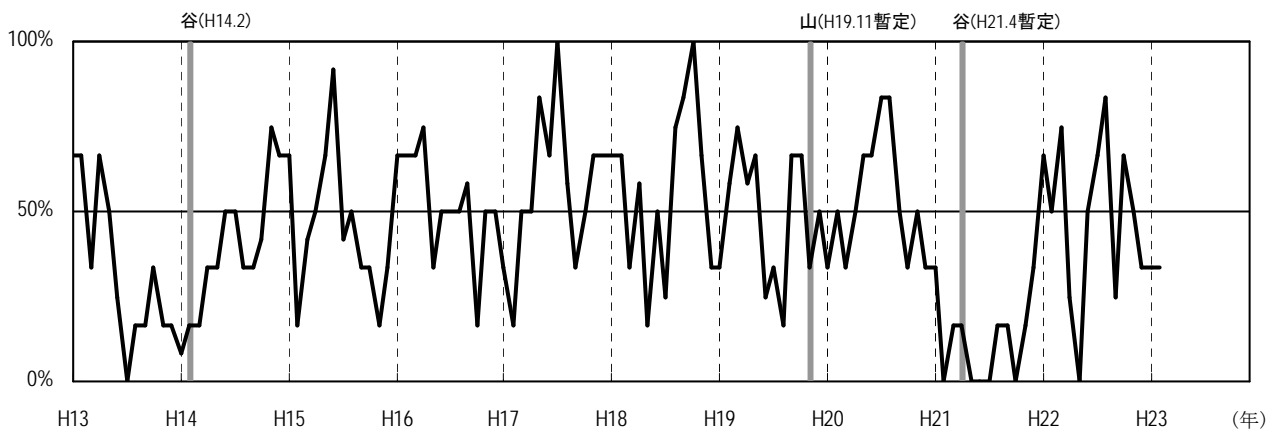
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



図表3 神奈川県景気動向指数指数表

(先行指数)

(単位 %)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2001	H13	42.9	28.6	28.6	57.1	28.6	42.9	28.6	14.3	21.4	14.3	28.6	57.1
2002	H14	50.0	85.7	57.1	57.1	100.0	100.0	71.4	57.1	57.1	57.1	71.4	57.1
2003	H15	71.4	50.0	100.0	57.1	57.1	42.9	71.4	50.0	64.3	85.7	85.7	85.7
2004	H16	57.1	71.4	71.4	42.9	28.6	42.9	50.0	57.1	71.4	50.0	57.1	28.6
2005	H17	42.9	14.3	42.9	28.6	57.1	42.9	50.0	64.3	42.9	57.1	57.1	57.1
2006	H18	71.4	71.4	42.9	57.1	71.4	78.6	57.1	0.0	14.3	14.3	42.9	28.6
2007	H19	42.9	42.9	28.6	50.0	0.0	57.1	28.6	28.6	14.3	57.1	42.9	42.9
2008	H20	42.9	42.9	57.1	14.3	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9
2009	H21	28.6	0.0	14.3	14.3	28.6	57.1	71.4	85.7	71.4	71.4	85.7	71.4
2010	H22	85.7	57.1	57.1	71.4	71.4	28.6	42.9	71.4	85.7	28.6	42.9	42.9
2011	H23	85.7	85.7										

(一致指数)

(単位 %)

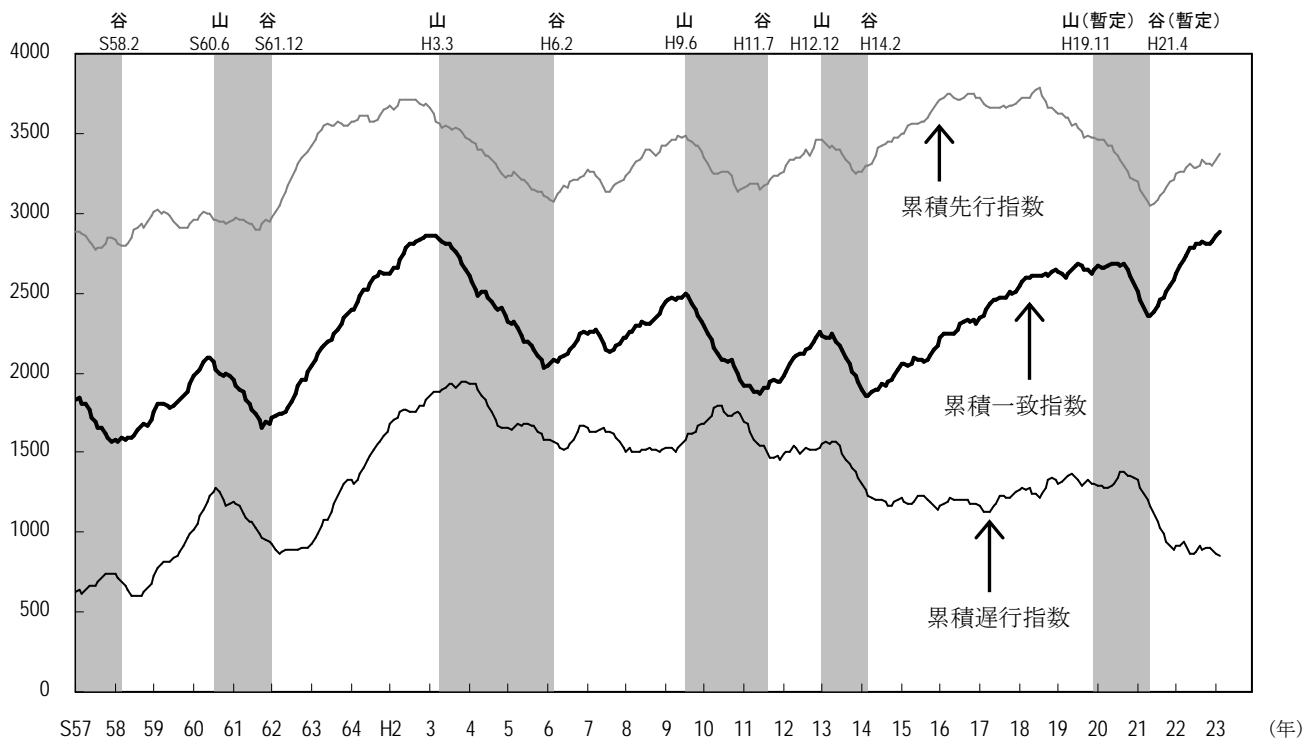
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2001	H13	28.6	42.9	42.9	71.4	7.1	21.4	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3
2002	H14	0.0	14.3	50.0	71.4	71.4	42.9	85.7	42.9	71.4	71.4	71.4	85.7
2003	H15	85.7	50.0	42.9	57.1	85.7	42.9	42.9	42.9	57.1	85.7	85.7	71.4
2004	H16	100.0	71.4	57.1	50.0	42.9	85.7	78.6	71.4	57.1	42.9	57.1	28.6
2005	H17	78.6	71.4	85.7	85.7	71.4	57.1	57.1	57.1	42.9	85.7	42.9	57.1
2006	H18	85.7	85.7	71.4	50.0	57.1	57.1	42.9	57.1	57.1	42.9	71.4	57.1
2007	H19	42.9	42.9	21.4	71.4	71.4	85.7	57.1	42.9	14.3	57.1	28.6	71.4
2008	H20	71.4	42.9	50.0	57.1	71.4	42.9	57.1	28.6	71.4	0.0	14.3	0.0
2009	H21	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	71.4	85.7	85.7	71.4	85.7	85.7	85.7
2010	H22	92.9	100.0	85.7	71.4	100.0	57.1	64.3	57.1	64.3	28.6	57.1	57.1
2011	H23	85.7	85.7										

(遅行指数)

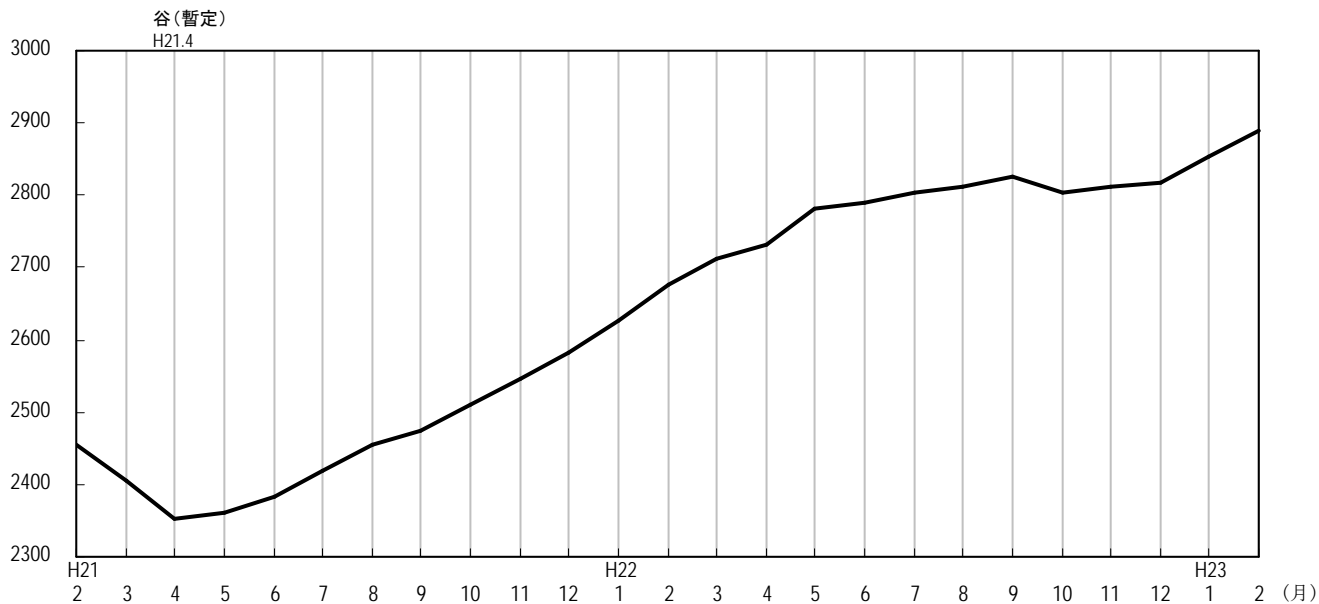
(単位 %)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2001	H13	66.7	66.7	33.3	66.7	50.0	25.0	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7
2002	H14	8.3	16.7	16.7	33.3	33.3	50.0	50.0	33.3	33.3	41.7	75.0	66.7
2003	H15	66.7	16.7	41.7	50.0	66.7	91.7	41.7	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3
2004	H16	66.7	66.7	66.7	75.0	33.3	50.0	50.0	50.0	58.3	16.7	50.0	50.0
2005	H17	33.3	16.7	50.0	50.0	83.3	66.7	100.0	58.3	33.3	50.0	66.7	66.7
2006	H18	66.7	66.7	33.3	58.3	16.7	50.0	25.0	75.0	83.3	100.0	66.7	33.3
2007	H19	33.3	58.3	75.0	58.3	66.7	25.0	33.3	16.7	66.7	66.7	33.3	50.0
2008	H20	33.3	50.0	33.3	50.0	66.7	66.7	83.3	83.3	50.0	33.3	50.0	33.3
2009	H21	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	33.3
2010	H22	66.7	50.0	75.0	25.0	0.0	50.0	66.7	83.3	25.0	66.7	50.0	33.3
2011	H23	33.3	33.3										

図表 4-1 累積指数グラフ・長期（先行・一致・遅行）



図表 4-2 累積指数グラフ・短期（一致）



(注1) 累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的にとらえることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。

$$\text{累積DI} = \text{前月までの累積DI} + (\text{当月のDI} - 50)$$

(注2) グラフ中の網かけ部分は、景気後退期を示しています。

(注3) グラフを見やすくするため、先行指数は2500、一致指数は1000を加算しています。

(注4) グラフ中の山・谷は神奈川県のものであります。

図表5 神奈川県景気基準日付

谷	山	谷	拡張期間	後退期間	全循環
	昭和55年 6月	昭和58年 2月		32か月	
昭和58年 2月	昭和60年 6月	昭和61年12月	28か月	18か月	46か月
昭和61年12月	平成 3年 3月	平成 6年 2月	51か月	35か月	86か月
平成 6年 2月	平成 9年 6月	平成11年 7月	40か月	25か月	65か月
平成11年 7月	平成12年12月	平成14年 2月	17か月	14か月	31か月
平成14年 2月	平成19年11月(暫定)	平成21年4月(暫定)	69か月	17か月	86か月

景気基準日付とは主要経済活動の中心的な転換点で、景気の転換点です。景気基準日付は景気循環の局面判断や各循環における経済活動の比較などに利用されます。  
 景気が拡張から後退に転ずる転換点が景気の山で、景気が後退から拡張へ転ずる転換点が景気の谷です。

図表6 KDI（神奈川県景気動向指数）個別指標の概要

	指 標 名	季節調整法等	作 成 機 関	資 料 出 所
先行系	1 県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	X-12-ARIMAの中のX-11デフォルト	県統計センター	工業生産指数月報
	2 県新規求人数(除く学卒)	X-12ARIMA	神奈川県労働局職業安定部	神奈川県労働市場月報
	3 県所定外労働時間指数(製造業)	X-12ARIMA※	県統計センター	毎月勤労統計地方調査月報
	4 県新設住宅着工床面積	X-12ARIMA※	国土交通省(建設統計室)	住宅着工統計
	5 県乗用車新車新規登録・届出台数(普通・小型・軽)	X-12ARIMA※	神奈川県自動車販売店協会(社)全国軽自動車協会連合会	新車登録台数速報 軽自動車新車販売速報
	6 県企業倒産件数(逆サイクル)	実数	㈱東京商工リサーチ	全国企業倒産状況
	7 日経商品指数(17種)・前年同月比	前年同月比	㈱日本経済新聞社	日本経済新聞
一致系	1 県生産指数(製造工業)	X-12ARIMA	県統計センター	工業生産指数月報
	2 県大口電力使用量	X-12ARIMA※	東京電力㈱神奈川支店	作成機関資料
	3 首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)	X-12ARIMA※	首都高速道路㈱	作成機関資料
	4 県投資財出荷指数	X-12ARIMA	県統計センター	工業生産指数月報
	5 県有効求人倍率(除く学卒)	X-12ARIMA	神奈川県労働局職業安定部	神奈川県労働市場月報
	6 県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)	X-12ARIMA※	神奈川県労働局職業安定部	神奈川県労働市場月報
	7 横浜港等輸出入通関実績	X-12ARIMA※	横浜税関	横浜税関管内貿易速報
遅行系	1 県在庫指数(製造工業)	X-12-ARIMAの中のX-11デフォルト	県統計センター	工業生産指数月報
	2 県普通営業倉庫保管残高	X-12ARIMA※	神奈川県倉庫協会	作成機関資料
	3 県常用雇用指数(全産業)・前年同月比	前年同月比	県統計センター	毎月勤労統計地方調査月報
	4 県消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)	X-12ARIMA※	県統計センター	消費者物価指数月報
	5 県内銀行貸出約定平均金利・前年同月比	前年同月比	日本銀行横浜支店	県内金融経済概況
	6 家計消費支出(勤労者・関東大都市圏)	X-12ARIMA※	総務省統計局	家計調査報告(二人以上の世帯)

※神奈川県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

図表7 個別指標の数値

(先行系列)

指標名 年月	県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	県新規求人数(除く学卒)	県所定外労働時間指数(製造業)	県新設住宅着工床面積	県乗用車新車新規登録・届出数(普・小・軽)	県企業倒産件数(逆サイクル)	日経商品指数(17種)・前年同月比
	季節調整値 H17=100	季節調整値 人	季節調整値※ H17=100	季節調整値※ ㎡	季節調整値※ 台	件	%
H22. 2	94.4	23,143	92.8	411,515	19,847	58	117.8
3	93.8	24,123	95.9	453,550	19,937	72	123.8
4	92.3	24,517	98.3	463,444	20,011	70	128.4
5	100.8	23,756	98.0	459,358	19,584	38	120.9
6	96.5	24,326	88.5	415,788	18,792	61	113.2
7	93.8	22,884	99.1	407,521	23,111	50	111.8
8	91.6	24,353	101.8	513,269	27,861	66	109.0
9	89.6	24,589	102.7	458,121	19,028	64	113.9
10	101.4	24,651	97.2	515,261	15,857	63	110.6
11	98.6	24,472	103.0	446,781	15,081	69	113.2
12	78.1	23,453	99.0	591,442	15,806	72	115.2
H23. 1	80.6	24,999	100.8	467,287	16,512	54	121.6
2	75.6	25,655	100.3	527,681	18,266	39	123.2

(一致系列)

指標名 年月	県生産指数(製造工業)	県大口電力使用量	首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)	県投資財出荷指数	県有効求人倍率(除く学卒)	県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)	横浜港等輸出入通関実績
	季節調整値 H17=100	季節調整値※ MWH	季節調整値※ 台	季節調整値 H17=100	季節調整値 倍	季節調整値※ 人	季節調整値※ 百万円
H22. 2	79.5	1,252,919	31,548	85.4	0.39	9,786	1,168,386
3	82.4	1,272,143	31,524	86.7	0.40	9,305	1,179,680
4	81.0	1,278,262	32,124	84.1	0.41	9,459	1,245,917
5	83.4	1,275,091	32,118	85.6	0.41	8,867	1,181,570
6	81.1	1,298,405	32,429	85.9	0.42	9,138	1,168,769
7	82.8	1,327,574	32,079	84.7	0.41	9,043	1,143,113
8	84.3	1,363,355	32,645	80.4	0.42	9,142	1,133,942
9	88.7	1,309,104	32,072	93.4	0.42	8,940	1,134,827
10	79.4	1,268,964	31,138	84.1	0.43	9,013	1,140,968
11	80.2	1,254,101	31,411	83.9	0.43	8,497	1,138,674
12	80.2	1,263,652	32,107	87.0	0.43	8,315	1,157,526
H23. 1	81.3	1,311,596	33,720	81.7	0.44	7,992	1,219,041
2	79.7	1,278,582	32,613	85.4	0.46	8,181	1,334,857

(遅行系列)

指標名 年月	県在庫指数(製造工業)	県普通営業倉庫保管残高	県常用雇用指数(全産業)・前年同月比	県消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)	県内銀行貸出約定平均金利・前年同月比	家計消費支出(勤労者・関東大都市圏)
	季節調整値 H17=100	季節調整値※ トン	%	季節調整値※ H17=100	%	季節調整値※ 円
H22. 2	88.1	1,729,078	100.4	99.8	92.6	333,781
3	88.1	1,717,597	100.3	99.8	92.6	356,772
4	81.7	1,696,108	99.8	99.7	92.2	332,207
5	82.3	1,710,990	99.1	99.3	92.4	322,908
6	83.8	1,730,411	99.9	99.9	95.5	336,703
7	82.6	1,741,482	100.0	99.1	95.7	329,870
8	83.0	1,769,061	99.5	98.8	95.7	348,010
9	81.6	1,771,956	99.9	99.2	94.7	334,565
10	82.7	1,755,152	99.6	99.9	94.7	330,898
11	81.7	1,772,980	99.7	100.0	94.6	326,849
12	79.7	1,785,961	99.6	99.4	94.5	318,542
H23. 1	83.6	1,787,273	98.3	99.5	94.4	314,379
2	83.2	1,815,501	98.8	99.3	93.8	319,487

※ 神奈川県景気動向指数作成を作成する際に、独自に季節調整を行っています。



# <参考> 神奈川C I

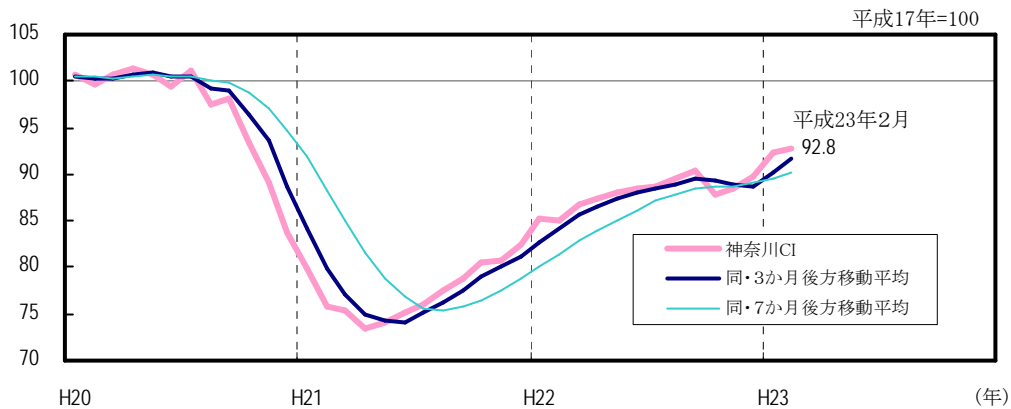
※神奈川CIの構成指標は、KDI一致系列と共通の指標としています。

## 1. 平成23年2月分神奈川C Iの概要

2月の神奈川C I（H17=100）は、92.8となり、前月と比較して0.4ポイント上昇し、4か月連続の上昇となった。3か月後方移動平均は1.45ポイント上昇し、2か月連続の上昇、7か月後方移動平均は0.59ポイント上昇し、18か月連続の上昇となった。

（神奈川C Iは、指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。C Iは不規則な動きも含まれていることから、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。）

## 2. 神奈川C Iの推移



## 3. 神奈川C I採用系列の寄与度

		平成22年				平成23年	
		9月	10月	11月	12月	1月	2月
神奈川C I	前月差(ポイント)	90.4	87.9	88.5	89.8	92.4	92.8
1 県生産指数(製造工業)	前月比伸び率(%)	5.2	-10.5	1.0	0.0	1.4	-2.0
	寄与度	0.70	-0.92	0.14	0.00	0.19	-0.28
2 県大口電力使用量	前月比伸び率(%)	-4.0	-3.1	-1.2	0.8	3.8	-2.5
	寄与度	-0.87	-0.66	-0.24	0.17	0.83	-0.56
3 首都高速道路神奈川線 通行台数(大型車)	前月比伸び率(%)	-1.8	-2.9	0.9	2.2	5.0	-3.3
	寄与度	-0.31	-0.50	0.14	0.37	0.84	-0.59
4 県投資財出荷指数	前月比伸び率(%)	16.2	-10.0	-0.2	3.7	-6.1	4.5
	寄与度	0.94	-0.85	-0.02	0.30	-0.53	0.37
5 県有効求人倍率(除学卒)	前月差	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.02
	寄与度	0.18	0.39	0.19	0.20	0.41	0.62
6 県雇用保険初回受給者数 (逆サイクル)	前月比伸び率(%)	-2.2	0.8	-5.7	-2.1	-3.9	2.4
	寄与度	0.16	-0.05	0.40	0.16	0.29	-0.15
7 横浜港等輸出入通関実績	前月比伸び率(%)	0.1	0.5	-0.2	1.7	5.3	9.5
	寄与度	0.01	0.06	-0.02	0.18	0.56	0.97
3か月後方移動平均	前月差(ポイント)	89.5	89.3	88.9	88.7	90.2	91.7
	前月差(ポイント)	0.68	-0.26	-0.37	-0.19	1.51	1.45
7か月後方移動平均	前月差(ポイント)	88.5	88.6	88.8	89.0	89.6	90.2
	前月差(ポイント)	0.76	0.16	0.13	0.25	0.58	0.59

注：神奈川C Iの前月からの変化（前月差）が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

## 4. 神奈川C I時系列表

平成17年=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2008	H20	100.6	99.7	100.7	101.4	100.7	99.4	101.1	97.4	98.2	93.4	89.1	83.8
2009	H21	79.8	75.9	75.4	73.4	74.1	75.1	76.1	77.6	78.8	80.6	80.7	82.4
2010	H22	85.2	85.1	86.8	87.5	88.1	88.4	88.7	89.6	90.4	87.9	88.5	89.8
2011	H23	92.4	92.8										

## 利用の手引き

### ○ 景気動向指数（D I）の概要

D I（ディフュージョン インデックス）には先行、一致、遅行の3本の指数があります。先行指数は景気の先行きを示し、一致指数は景気にはほぼ一致して動いて現状を示し、遅行指数は景気に遅れて動きを示します。一般的に先行指数は、一致指数に数か月程度先行することから「景気の動きを予知」し、遅行指数は一致指数に半年から一年遅れることから「景気の転換点や局面の確認」に利用することができます。

### ○ 景気動向指数（D I）の作成方法

D Iは、①景気と対応性のある経済統計データを選定し、②的確に季節変動を除去した上で、③3か月前の値と比べることにより作成します。

#### ・D Iの計算

各個別指標の数値を3か月前と比較して、増加したときは+を、減少したときは-を、変化のなかったときは0（もちあい）をつけます。（景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加を-、減少を+とします。）

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用指標数に占める拡張指標数（+の数）の割合（%）を求めます。

$$D I = \text{拡張指標数} / \text{採用指標数} \times 100 (\%)$$

（0（もちあい）は0.5としてカウントします。）

#### ・季節調整

統計調査等によって集計された値には、毎年繰り返される規則的な増減（季節変動）が含まれることが多く、景気変動を把握するため、公表される統計の値から季節変動を除去することを季節調整といい、その方法として、米センサス局法X-12-ARIMAや前年同月比を用いています。

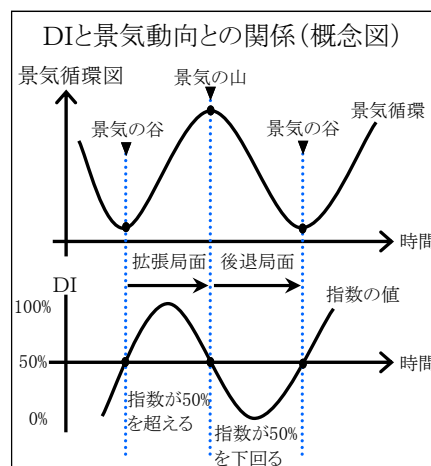
### ○ 指数の見方

#### ・景気の局面

D Iでは景気の二局面「拡張」「後退」をみることができます。一般的に一致指数が3か月連続で50%超であれば「拡張」、逆に3か月連続で50%を下回れば「後退」と考えられます。実際には個別指標の不規則な変動が合成されて大きなぶれが生じることもあります。

#### ・景気の山・谷

景気の山は、一致指数で50%超が続く時期（拡張局面）から、50%未満が続く時期への転換点、50%超から50%未満へ向かう時期の近辺にあり、景気の谷は逆に50%未満から50%超へと向かう時期の近辺にあるものと一般的には考えられます。



### ○ 参考指標「神奈川C I」について

神奈川C I（コンポジット インデックス）は、構成指標の動き（変化量）を合成した指数で、過去と比較した相対的な景気変動の大きさを示します。景気の方角感を示すK D Iと併せて利用することにより、神奈川県内の景気の現状把握に資することを目的とし、K D Iを補完する参考指標として、平成23年1月より公表を開始しました。

#### ・神奈川C Iの作成方法

神奈川C Iの作成方法は、内閣府のC I作成方法に準じています。また、構成指標はK D I一致指数と共通の指標としています。神奈川C Iの作成方法を簡潔に述べると、K D I一致指数の個別指標における前月比変化率を、過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。

#### ・神奈川C Iの見方

神奈川C Iの変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。C Iには不規則な動きも含まれていることから、ある程度の期間の月々の動きをならしめてみるのが望ましく、統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

#### ・D Iとの違い

D Iと同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればC Iも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばC Iも小幅に上昇するため、C IはD Iでは計測できない景気変動の大きさを計測することができます。

次回の公表：K D I 平成23年3月分の公表は平成23年5月31日（火）の予定です。